

「ホンパプ・ホンスル」、外食文化を変える

ソウル駐在員事務所

洪承元

依然として血縁、地縁、学縁等が重視され、他人と共に行動することを好む韓国社会では、他人の視線を気にすることなく一人で自由に行動することは容易ではありません。しかし、最近では様々なことを一人で楽しむ「ホン族」が増えつつあります。

「ホン」は韓国語で「一人」という意味で、ホン族とは食事、酒、映画やコンサートなど、様々なことを一人で楽しむ人々、日本で言う「おひとり様」を指す造語です。今回は韓国の「おひとり様」、「ホン族」についてレポートします。

これまで韓国でおひとり様は少し変わった人に見られることもありました。しかし、景気の低迷、単身世帯の増加、個性や個人主義を好む若者の増加等の影響で少しずつ変化が見られるようになり、最近では「ホンパプ（ひとり飯）」、「ホンスル（ひとり酒）」、「ホン族」という言葉をよく耳にします。

これまで韓国の飲食店では、2人以上が一緒に食べることを想定したチゲ（鍋）料理や肉類などのメニューが多く、1人前の注文はなかなかできませんでした。しかし、最近はこのいったメニューでも1人前から注文できる店が増え、その上ホンパプやホンスルを楽しむ「おひとり様」をターゲットにした飲食店も登場するなど、「ホン族」が外食文化を変えつつあります。

予備校街などでは、すでに一人で手軽に利用できる飲食店が定着していましたが、最近のホンパプ食堂はより多様な趣向に対応しているようです。気楽に出入りでき、「おひとり様」でも気兼ねなく食事ができる雰囲気作りは、最近のホンパプ食堂の共通点といえるでしょう。注文しやすいように自動券売機を置き、周囲の視線を気にせずに済むように一人専用席や一人用の間仕切りを設ける店や、オープンキッチンを囲むカウンター形式とする店など、「おひとり様」への配慮がなされています。最近オープンしているホンパプの店舗には、メニューやインテリアが和風の店も増えており、一人でも注文しやすい麺類や丼もの、日本の家庭料理等のメニューを揃え、食器やインテリア、座席配置等も「おひとり様」仕様になっています。

ホンパプ・ホンスル族の多くは、口コミやインターネットブログ等を参考にして、ホンパプ専門食堂等に関する情報を収集しているようです。これは、オンライン上で情報を交換し人間関係を作っていくという現代社会のトレンドを反映する行動のひとつともいえるのではないのでしょうか。たとえば、スマートフォンアプリ「ホンパプ人の晚餐」では、ホンパプ・ホンスル店の情報交換はもちろん、ホン族同士でのソーシャルダイニング¹もなされています。

¹ ソーシャルダイニング (Social Dining) : SNS を通じて、同じ関心事を持つ人たちが出会って食事を楽しみながら人間関係を作っていくこと

最近インターネット上には、「ホンパプレベル」、「ひとり遊びレベル」といった「ホンパプ」行動のレベル基準表まで出回っており、自分のホンパプレベルを試してみる人たちもいます。

ちなみに、私はホンパプレベル4まで到達しましたが、ファミリーレストランや焼肉専門店、居酒屋に一人で行くのはまだできそうにありません。

●ホンパプのレベル

レベル1	コンビニのイートインスペース
レベル2	フードコート
レベル3	軽食堂(トッポッキやキンパプ(海苔巻き)などを売る店)
レベル4	ファーストフード
レベル5	中華料理屋、冷麺専門店
レベル6	和食専門店、専門料理店等
レベル7	ピザ・スパゲティ専門店、ファミリーレストラン
レベル8	チムタク(煮込み料理)、焼肉
レベル9	居酒屋

(インターネット上の情報をもとに作成)

食事は誰かと共にするものであるという韓国社会の通念や、大勢の人々との接触等に疲れた現代人に、ホンパプ食堂は「一人」への欲求を満たしてくれる空間とも言えるでしょう。「おひとり様」文化が根付いている日本のように、韓国でも「おひとり様」が当たり前となる時代がやってきたのかもしれない。



オープンキッチンを囲むカウンター形式の座席(当事務所にて撮影)